

歩 & 目 デス 足 ラテス

Vol.78

旧佐礼谷村の 昭和を探る

〈伊予市〉

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・
近代化遺産活用アドバイザー

松山市の南方、山間地にある佐礼谷地区は、昭和30年に中山町となり、現在は伊予市（平成17年に合併）となつている。そもそものは、地方においても近代自治が始まつた明治22年の町村制で誕生した歴史のある村で、佐礼谷村としては66年間存続していた事になる。従つて今もかつて役場のあつた中心部には、農協があり、小学校があり、少し離れて郵便局もあるという具合。国道56号線からその地区を指して入つて行くと、途中で柵田や石垣など、集落景観の美しい佇まいに気づくが、やがてレトロな郵便局の洋風建物が見える辺りを目印に、村の中枢へと誘われる。

間も無くしてそれとなく分かる農協の建物が現れ、大きな米倉庫が存在感を見せている。この、昔はそれこそ全国至る所、県内においてもこうした村の中心地

や鉄道の駅前などには、物流の証としての同様な姿形をどこでも目にする事が出来た。殆どは切り妻瓦屋根のシンプルな形態で、開口部のある人口側は必ず下屋庇が延び、搬出入の作業がやりやすいよう機能的になつている。戦前期の正式名称は、保障責任中山信用購買販売生産組合米倉庫とヤタラに長い。JAの源流でもある産業組合が創設されたのが明治33年、これで販売、購買、信用、利用の4業務が確立された。県の近代化遺産調査によれば、大正6年に公布された農業倉庫業法によつて全国に普及していったものらしく、当時の農商務省によつて以後凡その規模や形の仕様が決められている。大正期のある記録によれば、こうした倉庫の棟数の多さは愛媛は全国8位とのこと、



米倉庫内部



米倉庫外観



米倉庫の棟飾りに「共存同栄」の文字

決して平地に恵まれた県でないことを想えば、きつと山間の奥深くまで柵田が開かれ、戦前期は米作主体の農業県だったことがこうしたデータからも伺える。概略のみかん県イメージは、やはり戦後のものである。

何れにしても、減反基調の事もあつてか、県内で同様の倉庫は目下激減中で、貴重な存在になつてきている。そうした背景から、地元JA中山と中山史談会のご協力もあり、この程11月に工学院大の二村悟先生と学生により、そうした記録保全の必要から実測調査も行われた。そして以下の発見のオマケまでついた。大屋根根テツペンの棟瓦に鶴亀の飾り瓦が双方に認められ、何やら文字が書いてある、と。それがアップ写真の「共存同栄」。



旧佐礼谷村役場外観



旧佐礼谷村役場二階内部(議場)

芳名が記載され、地元有志の寄贈による時代の空気運を物語る。これだけの大きな旗は県内未



掛け軸「億兆一心決起報國 八紘一宇 四海平和の 春を期す」

地元の方々も実はビックリ。農業協同組合の元々の原点とも言うべき農業を基軸とする産業組合の理念を表した四文字が、ハッキリと頭上に置かれていたのだから。因みに、松山の堀端にある県農協会館の前には、「一人は万人のため 万人は一人のため」の石碑も建てられている。

発見と言えば、その調査の折りにはもう一つ。以前から気になっていた道路向かいの二階建ての建物。実はコレ、旧佐礼谷村役場庁舎。今回初めて内部を見せて頂き驚いた。特に二階にそのまま残るかつての議場は、ご覧の如くで天井は洋風、畳敷きの和洋折衷。県内でも地方自治体の戦前期の旧役場庁舎は他に二例（旧長浜町役場と菊間の旧亀岡村役場）しかないという貴重さ。しかも今回は何



二階議場の天井換気に見られる意匠

やら大事そうな木箱から戦時中の海軍旗二流が見つかった。箱書きには高岡久志氏以下19名ものご

発見の戦時資料かも知れない。こちらの建物の方も、その悉皆記録と棟札などの調査が待たれるところ。

こうした旧佐礼谷村当時の歴史密度は、その現物が残存している事例としても県内屈指かも知れないと改めて考えさせられている。



海軍の軍艦旗二流の発見と地元の方々